成田財特法、NHK 予算案審議にあたっての確認
［議事録 3/3］
・辞表取りまとめに関する事実確認

○吉川沙織君

そのような点を踏まえつつ伺います。

会長は、就任当日、理事全員からの辞表を求めたのではないかとの質問に対して、「人事についてはコメントを控えさせていただきたいと思います。」と答弁していたにもかかわらず、理事の方々は、理事全員が提出させられたのかとの質問については、国会では本当のことを言うべきだ、うそをつけないということで理事全員が辞表を提出したと答えたことは、NHK 役員として理事のバランス感覚が働いたからではないでしょうか。

それとも、2 月 25 日の衆議院総務委員会で、理事全員が辞表の提出に関して正直に答えたことに対して会長は、「各理事は事実をそのまま述べたと思います。それはそれで結構ではないかというふうに思います。 私がどう思うかについては、これはまた別問題でございまして、人事のことでございますので、これ以上のコメントは差し控えさせていただきたいと思います。」と、人事上の脅しとも感じられる答弁をされていますが、これで理事全員に緊張感が走ってしまったんでしょうか。

この申し上げている「クローズアップ現代」の問題、会長への報告の時期について、なぜ真実を述べることができないんでしょうか。両専務理事、お願いいたします。

○参考人（塚田祐之君）

繰り返しになって恐縮ですけれども、御質問はニュースや番組の取材、制作過程に関することですので、お答えを差し控えさせていただきます。

○参考人（石田研一君）

繰り返しになりますけれども、取材、制作過程についてはお答えを差し控えさせていただきます。

○吉川沙織君

3 月 14 日の当委員会で、「私の質問に対する答弁は事実に反することにもつながりかねません」、こう指摘させていただいたのに対し、会長は、「結果として、「クローズアップ現代」でケネディ大使とのインタビューがなされました。私はこれが全てだというふうに思います。中での文書の何月何日にどうしたということについては、これはいろいろあるかもしれませんけれども、私は、私の申したとおりでございます。いずれにしましても、この問題につきましては、この前、先般ケネディ大使とのインタビューがなされたことだと思います。」、こう答弁なさっています。

これはどういう意味でしょうか。インタビューがなされたら、なぜ、過程、報告が 2 月 10 日に上がっていたのではないかというこの問題は解消するんでしょうか。会長、教えてください。

○参考人（籾井勝人君）

意味がよく通じていなかったかどうか知りませんが、それがその後の衆議院総務委員会における私の説明になるわけですが、あのときも私は、取材とか制作の問題についてはやはり答えられませんというのが私の本音でございました。ただ、表現がちょっと違っていましたので後で理事会で御釈明をすることになったわけだというふうに思っております。

○吉川沙織君

「私はこれが全てだというふうに思います。」、こう答弁なさったのも、質問自体を否定されるような表現です。さらに、「中での文書の何月何日にどうしたということについては、これはいろいろあるかもしれませんけれども、私は、私の申したとおりでございます。」、この意味を教えていただけませんでしょうか、会長。

○参考人（籾井勝人君）

やはり、番組の事後であろうが事前であろうが、番組の取材と制作過程について、これをオープンにするということは控えさせていただきたいと思います。

○吉川沙織君

「この問題につきましては、この前、先般ケネディ大使とのインタビューがなされたことだと思います。」とも会長は 3 月 14 日の当総務委員会で重ねて強調されていらっしゃいますが、会長の一連の発言が混乱を招いたことと結果的にインタビューが行われたということをなぜ短絡的に結び付けることができるんでしょうか。それは、そのように決着を図ったからだとおっしゃっているようにも等しいことですが、会長、いかがでしょう。

○参考人（籾井勝人君）

結果が出る前と出た後ではやっぱりおのずと違うわけで、別に私が感覚的にそれを結び付けたわけではないわけです。あの時点ではもう既に結果が出ておりましたのでということを申し上げたかったわけでございます。

○吉川沙織君

会長のその答弁ぶりの仕方が役員にも影響を与えたらしく、放送総局長も、3 月 19 日の記者会見で、取材、制作の過程についてはお答えを差し控えさせていただきたい、最終的には出演いただけたということである、こう答弁なさっています。放送総局長はそれで現場に対する説明は十分であると考えておられるんでしょうか、それとも説明は不要であると考えておられるんですか、要不要でお答えください。

○参考人（石田研一君）

現場は現場でそれぞれに取材やっているわけですから、むしろ私がそういう場で取材、制作の過程を明らかにするということは、先ほども言ったように今後の取材、制作に影響があるということなんで、私からはこうした場で、正式な場でその取材、制作過程についてお答えすることは差し控えさせていただきたい、差し控えさせていただくと先ほどからお答えしているところです。

○吉川沙織君

私も先ほどから何度も申し上げています。私は決して取材、制作の過程のことを問題にしているのではありません。会長御自身が報告を二度も受けておられながら、そのことについて事実に反する答弁をなさったということに関して伺いを立てているわけです。

辞表の問題について伺います。理事辞表取りまとめについて、会長のこれまでの国会、衆議院、参議院での議事録を確認いたしました。2 月 25 日の衆議院総務委員会で、「歴代の会長で辞表を提出しろと求めた会長はいなかったそうでありますが、どう思いますか。」と問われ、会長は、「そういうことは確認いたしておりません。」、答弁され、3 月 3 日の参議院予算委員会では、「理事全員に辞表を出させるという、そういうふうなことというのはあったんでしょうか。」との問いに、「確認しておりません。」と答弁され、3 月 14 日のこの総務委員会でこれらの答弁を踏まえ再度会長に確認をされたんでしょうかと質問させていただきましたが、会長は、「しておりません。」、こう答弁されておられます。

今日で少なくとも４度目ですが、会長は過去の事例、御確認いただけたんでしょうか。

○参考人（籾井勝人君）

お答えいたします。

人事のことでございます。私は、過去にあったとかなかったとか、そういうことを基に私の人事に対する姿勢を変えるとか、そういうことはないわけでございます。そういう意味におきまして、こういう答弁している間に、いや、福地前々会長がやったみたいな話があるんですが、それはそれとして、だから声としては聞いておりますが、私が過去にこの NHK においてそういうことがあったかどうかという確認はいたしておりません。

○吉川沙織君

今いろいろお述べになりましたけれども、最終的には確認していない、こういう御答弁だったと思います。国会で 3 度も問われても、会長はなぜ、その事例、今前例のことを少しおっしゃいましたけれども、確認していないというのが今の最終的な答弁でした。国会での議論を無視されておられるんでしょうか。

質問者の意思とは関係なく、そんなことはどうでもいいことだと考えておられるのか、不都合なことは確認していないと答弁することにされておられるのか、会長がこれまで確認されなかった理由について伺いたいと思います。

○参考人（籾井勝人君）

委員も百も御承知だと思いますが、人事につきましてはいろいろ相談するようなことではないというふうに私は思っておりまして、もちろんいろんな声を参考にはしますが、やはり最終的には、自分の意思、自分の信念、自分の公平さと、こういうものを土台にしながら決めるわけでございます。したがいまして、私が人事権の濫用はしませんと言っている理由は、辞表を預かったから首だとか、そういうふうな、短絡的なといいましょうか、自動的な行動はするつもりはございません。

○吉川沙織君

私は、今お伺いしたのは、国会で３度確認されましたでしょうかと問われて、確認されていない、この答弁を３回繰り返して、今日もそうお述べになりました。もちろん、前回のことを今少しお触れになりましたけれども、

何で確認されなかったんでしょうかという伺いを立てたわけであって、私はその会長の人事に対するスタンスについての質問を申し上げたわけではございません。何で確認されなかったんでしょうか。

○参考人（籾井勝人君）

多少しゃべり過ぎたかもしれませんが、まあ多分委員がこういうことをお聞きになりたいんじゃないかと思って、ついついちょっと頭の中で走り過ぎまして、申し訳ございません。

ただ、御理解いただきたいのは、確かに辞表を取ったということは奇異に聞こえるかもしれませんが、私にしては全く他意がなくて、みんなに緊張感を持ってやってほしいということ以外にないんです。

それで、今申したのは、ですから、人事のことについては、ここもまた木で鼻くくったように、いやこれは、人事は協会内部のことですからという、こういうことを言うつもりはなくて、私は私の考えに基づいて人事をやらせていただきますと、こういうことが一番言いたいポイントでございます。御理解いただけると思います。

○吉川沙織君

ついに確認いただけなかった理由についてはお答えをいただくことができませんでした。

少し違う観点から伺います。

3 月 19 日、放送総局長の定例会見で、放送総局長は、記者から辞表提出の件について、初日の役員会で上司からそういう話があったので日付の入っていない辞表を提出したとお答えになられ、記者から理不尽だとは思わなかったのかとの問いに、一番最初だったし、私は過去、福地会長時代にも辞表提出があったことを知っていたので、最初でもあるし、結果的に辞表を提出した、こうお答えになられています。

会長は、過去の事例は確認しているかしていないか、こういうお答えいただけませんでしたし、人事上のことなのでお答えは差し控えさせていただくということ、また会長の人事に対するスタンスはお述べになられましたが、答えられませんでした。なのに、一方で放送総局長は、福地元会長時代のことを述べておられます。

まず伺いたいのは、福地会長時代にも辞表提出があったということをどのようにして御存じになったんでしょうか。また、その経緯と内容については御存じだったと思いますが、いかがでしょうか。

○参考人（石田研一君）

当時、福地会長が会長に就任されたとき、私、あの当時福岡の局長をやっていましたので、どういう具体的にというところはつまびらかではありませんが、諸先輩の理事が辞表を提出したのは、後ほどそういう話は伺っております。

○吉川沙織君

では、福地会長時代に辞表を取りまとめたということの内容や経緯は御存じなかったということでよろしいですね。

○参考人（石田研一君）

詳しい経緯については、どういうやり取りがあったかというのは、福岡の局長をやっていましたので私は知りませんが、辞表を諸先輩の理事が提出したということは後ほど聞きました。

○吉川沙織君

私は、福岡の局長をやっていたわけでも、NHKの職員でもありません。でも、3月14日の当総務委員会の質疑でも触れましたが、どういう経緯で福地元会長は理事全員から辞表を集めたんだろう、これが気になりまして、調べました。

当時の経営委員会議事録を読んだところ、確かに日付のない白紙委任の辞表を出していただいています。しかし、それには背景があり、全く福地元会長の一存で行われたものではありません。福地元会長が就任される前のNHKは、NHK本体職員のインサイダー取引疑惑など不祥事が相次いで、NHKはまさに揺れていました。

平成20年1月20日付けの日本経済新聞の記事では、NHK経営委員会は19日、NHK記者によるインサイダー取引疑惑を受け、任期途上の理事全員に辞表を提出するよう促す方向で検討に入ったと報道しています。気になって、当時の経営委員会の議事録、全て拝読いたしました。

平成20年1月24日開催の第1060回の経営委員会の議事録を読むと、会長と経営委員会とのやり取りが克明に残されています。退任する橋本元会長が、問題の責任を取って既に辞任していたコンプライアンス担当、報道担当理事以外全員の辞表を橋本元会長宛てに提出してもらっており、橋本元会長は、自分宛てである辞表は一旦廃棄して新たな会長に進退を伺うようにと理事にも言ってあるとしたが、

結論から言えば、当時の経営委員長の御判断で出し直す必要はなく、それを福地新会長に引き継ぐようにというのが当時の経営委員会の決定事項で決められています。

ですから、今のように会長の一存で、もちろん経営のスタンスはおありかもしれません、会長の一存で辞表を集めたのではなく、福地会長は経営委員会から、前の会長から、そして経営委員会の決定事項として、辞表を引き継がないとも言えず、それで集めた、こういうことが言えます。

ですから、そういう事情、放送総局長も少しは御存じだったんではないでしょうか。いかがでしょうか。

○参考人（石田研一君）

この間の 3 月 19 日の記者会見の中でも私が答えたのは、福地さんのときにも辞表を提出したということを聞いていましたのでと、あのときは全体に不祥事があり、状況が違うかもしれませんけれどもということを記者会見で述べていますので、細かいどういうやり取りがあったかは存じておりませんが、あの当時、インサイダーの不祥事があって、そういう不祥事のある、そういう状況であったということはあの記者会見の中でも述べさせていただいております。

○吉川沙織君

では、詳細は御存じだったということだと思います。ですから、何が言いたいかと申しますと、当時の辞表取りまとめ、そして今回の辞表取りまとめは全く次元が異なるものだということです。

今日は時間の関係で全て伺うことができませんでした。ただ、この参議院総務委員会として NHK 予算案を審議するに当たって、衆議院の総務委員会理事会には会長のおわびの文書が最終的には提出され、当委員会には一切話がありません。我々、参議院総務委員会は、ずっと真剣に NHK の予算に向き合い、公共放送の問題にも向き合ってきました。これからまた、この委員会散会後、今後の審議の在り方について協議をすることになろうかと思いますが、あくまでも公共放送は国民･視聴者のためのものであるということを申し上げて、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。